

愛着に関するチェックリスト ～施設職員用～

子供の名前： _____ 生年月日： _____
記入者： _____ 子供との関係： _____ 記入日： H ____ 年 ____ 月 ____ 日

.....
<1> 対象児は、他の人より好きな、頼りにしている特定の大人がいる。

いる ・ いない →「いる」に○をつけた場合：それは誰ですか？ (_____)

.....
<2> 以下の項目について、あてはまるところに○をつけてください。

1) 転んだり、怪我をした時に、対象児はある特定の大人（あなたを含む）になぐさめてもらいに来る。

①はい ②時々そうである ③いいえ

2) 転んだり、怪我をした時、対象児がある特定の大人のところに行った時（あるいは、その大人から近づいた時に）、対象児は、なぐさめを受け入れる。

①はい ②時々そうである ③いいえ

3) 対象児は、ほぼいつもイライラしていたり、悲しそうだったり、あるいは深刻な感じだったりして、周りの人と関わらない。

①はい ②時々そうである ③いいえ

4) 対象児は、すぐに見知らぬ人に近づいて抱きついたり触ったりする。

①はい ②時々そうである ③いいえ

.....
<3> 対象児がある特定の人（<2>と必ずしも同一でなくてもよい）という時、以下の行動は見られますか？

あてはまるところに○をつけてください。また、①、②の場合、特定の大人は誰ですか？

1) 対象児は、自分で危ないことをする。（例：車道の方へ走って行く、ストーブに触る、高いところの上で飛び降りる等）

①はい ②時々そうである ③いいえ →特定の大人【 _____ 】

2) 対象児は、見知らぬ人が周りにいる時、特定の大人にくっついて離れない。

①はい ②時々そうである ③いいえ →特定の大人【 _____ 】

3) 対象児は、特定の大人の機嫌をいつもうかがっており、その大人を怖がっているように見える。あるいは、ロボットのように言うことを聞く。

①はい ②時々そうである ③いいえ →特定の大人【 _____ 】

4) 対象児は、ある特定の大人が悲しんだり、怒ったり、動転したりすることを心配そうに気にしており、少しでもそうだと慰めようとする。

①はい ②時々そうである ③いいえ →特定の大人【 _____ 】

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

児童虐待等の子どもの被害、及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究
（主任研究者 奥山真紀子）

分担研究報告書

分担研究者 田中究 神戸大学医学部付属病院精神神経科

虐待を受けた子どものトラウマとその治療に関する研究

田中究（神戸大学医学部付属病院精神神経科）

研究要旨

虐待をはじめとする児童の不適切な養育によって、児童にはさまざまな影響が生じ、特有の発達の歪みが生じ、時には長期にわたる病理をその人生に与える。こうした影響を軽減あるいは消退させる目的で、さまざまな心理療法が行われているが、その実態や効果は現在事例検討を通して知られるのに留まっている。本研究は、児童養護施設で行われている被虐待児に対する心理療法の基本統計を明らかにし、さらに個別的な心理療法の枠内に留まらず、複数の入所児童に対して効果的に行われる集団療法を、米国で行われている演劇療法を参考にしながら、開発しようとするものである。

研究協力者

森茂起（甲南大学人間科学研究所）

西澤哲（大阪大学人間科学研究科）

A. 研究目的

不適切な養育によって、子どもには愛着障害、トラウマ反応、自己価値観の低下などの心理的障害が生じ、適切な心理学的介入あるいは治療がなければ、その後に気分障害、解離性（転換性）障害、人格障害などの精神障害に発展していくことについての報告が多くなされている。不適切な養育に直面させられた児童は、その環境への介入（例えば親子関係への調整的治療的介入など）がうまく機能しない場合には、保護され、さらに児童養護施設、情緒障害児短期療育施設などに処遇される。こうした施設児童に、精神障害への端緒と考えられるような解離反応、行動障害が多数発見、児童に対する介入方法として様

々な方法が試みられている。児童が心的外傷として認知している心的外傷そのものを標的として扱うトラウマ志向型の方法であり、もう一方に心的外傷から保護され安全で安心できる環境を提供する方法（環境療法）であり、現実的にはこの2つが折衷的に取り入れられ、用いられている。つまり、児童に安全で安心できる環境が提供され、その環境下あるいは心理相談機関、医療機関でトラウマ志向型の治療介入が採用される。これらの治療介入法の多くは個人精神療法で行われ、箱庭療法をはじめとする遊戯療法の中でのポストトラウマティックプレイセラピー（遊戯療法の中で児童のトラウマ反応を見いだした際に素早く治療的介入を行う）あるいはEMDR（眼球運動による脱感作と再構成法）、力動的な精神療法などが行われている。成人で行われている長期曝露療法（治療的セッティングで外傷的体験を想起しながらその体験

強度を脱感作していく治療法)は児童期にはあまり用いられていない。また、グループ(集団)精神療法も推奨されているが、グループミーティングや心理教育の枠内にとどまることが多いが、音楽療法、サイコドラマ(演劇療法)などが少数報告されている。

心理的介入や治療の導入は強調されているが、治療に関しては個別の報告にとどまり、どのような児童を対象に、どのような形態で、どのような場所で、どのような内容の介入や治療が行われているのか、その有効性や効果がどの程度なのか、虐待を受けた児童に関する全体像は明らかではない。こうした基本的状況を明らかにしておくことは今後の被虐待児の心理療法の適用や効果を考える際に不可欠である。

また、不適切な養育を受け、児童養護施設など家庭外で集団生活している児童に対する個別心理療法を通して、心理療法の場における個別的関係の中での心理的变化が得られることが臨床的に経験することである。しかし、集団生活の場においてこうした変化が保持されることが困難で、環境療法下において成長による変化を待つ姿勢を取る必要があることを臨床家は経験している。これらは児童養護施設の施設そのものや職員、児童の構成、構造なども含めて考慮されるべきではあるが、効果的な心理療法的接近法を検討、開発していくことが必要である。その一つとして、複数の児童に対して行う集団精神療法があるが、これまでも児童養護施設では例えば、キャンプや旅行などの比較的無構造な集団療法的アプローチは用いられてきている。しかし、それは集団精神療法としてではなく、レクリエーションの一環として行われており、今後は構造化された集団精神療法への移行を模索する必要があると考えられる。こうした集団療法の一つに、Bostonのトラウマセンター(B.A.van der Kolk 主宰)で行われている演劇療法(theatre therapy)があり、

われわれは注目している。これは、児童における集団精神療法として行われ、心的外傷に関連した社会状況の認知や情動の変化を目的とするのみならず、攻撃性、自己効力感などの変化をも期待されるものとされている。理論的には、運動野、感覚野、連合野、辺縁系に神経線維を投射している視床に、感覚運動(身体運動、リズムなど)による入力があり、それが統御されたものとして脳の各領野に出力され、感情や認知の統御が期待されるというものである。このような構造化された集団精神療法は稀にしか行われておらず、検討する必要があると考える。

B. 研究方法

1. 児童養護施設における心理療法の実態調査

兵庫県児童養護協議会に加盟する児童養護施設(14施設)に入所している児童で、何らかの心理的問題や精神的な問題で相談機関、医療機関にかかっているものの実態、すなわち、人数、心理的精神科の問題の内容、治療介入年数、方法、児童の変化を把握することと同時に、児童養護施設の施設長、直接処遇職員、および児童養護施設および相談機関等の心理療法担当者を通して、児童の個別的な心理療法への導入理由、その効果と問題点などを、また児童自身にも心理療法の満足度などに関する調査票を作成し、各施設の施設長、直接処遇職員、心理担当職員に対してアンケート方式で調査する。

なお、兵庫県児童養護施設協議会との間で本調査に関しての、児童の個人情報保護等についての倫理的配慮について文書によって、契約を交わしている。

2. 集団精神療法の試行

現在提唱されている治療介入法についての文献的検討を行うと同時に、一施設(尼崎市社会福祉事業団尼崎学園)をモデル施設とし

て集団精神療法的な治療介入法を試行する。これは先述した Boston のトラウマセンターで行われている演劇療法 (theatre therapy) を目指すものである。その導入として音楽療法を行い、それを通して児童の行動の変容を C B C L、A B C L 等によって評価する。

本施設はこれまでも無構造な集団活動は行われていたが、しばしば児童の攻撃的な行動が問題となって、個人精神療法や薬物療法が選択されてきた。これらの治療法は一時的な改善はもたすが、持続せず、再発することがしばしば見られた。この状況の中で、集団活動の中で作品をつくり、その達成感を得やすいものを提供する試みの中で、音楽療法 (合唱) が選ばれた。これは、児童全体に案内を行い、活動日時を掲示することで、希望者が集まるかたちで開始された。さらに、今後は音楽療法が定着した段階で、音楽療法から自己のストーリーを集団の中で語る治療セッションを設け、そうした語りを音楽療法の中に表現できる方法を検討していく。

音楽療法は職業的音楽家に毎週来てもらい、隔週で実際に子どもへのセッションは月に2回行われている。職業的音楽家の技能を児童に披露することだけでも、児童は音楽療法の中に参加する意欲を高めることができるが、児童を音楽の中に巻き込み、合唱作品を作ることをより効果的に行うことが職業的音楽家に期待できる。この中で新たに音楽療法に加わる児童に対する効果の評価をはじめ、その効果や適応を検討し、効果判定を行い、総合的に治療の適応と方法を明確にする。

本研究に関しても、尼崎学園との間に児童の個人情報保護等に関する倫理的配慮を行う旨の契約書を交わしている。

C. 研究結果

1. 児童養護施設における心理療法の実態調査

心理療法そのもの、当該施設の心理療法全般に関する、児童養護施設の施設長への質問紙票、児童養護施設直接処遇職員への質問紙票、児童養護施設および相談機関などへの心理職員への質問票、および児童の個別的な問題や心理療法の内容、効果に関して、直接処遇職員および心理療法担当者への質問票を作成し、児童への満足度調査票も併せて作成している。

2. 集団精神療法の試行

Boston のトラウマセンターで行われている演劇療法の導入として音楽療法 (ゴスペル、Gospel) を、行い、それを通して児童の行動の変容を C B C L、A B C L 等によって評価しているところである。児童養護施設職員によれば、音楽療法を開始して、参加児の行動が穏やかになったとの印象を述べる一方、参加しない児童の問題が依然解決しないことが報告されている。

D. 結論

本研究は3年計画であり、十分な研究結果が出ておらず、結果に対する考察や結論を現段階で申し述べるのが困難である。

E. 業績

1. 書籍

田中究：医療機関との連携・事例を通して、学校トラウマと子どものこころのケア，179-201，誠信書房，東京，2005。

田中究：亜スペルが一症候群と子ども虐待，現代のエスプリ，168-175，至文堂，東京，2006

2. 論文発表

田中究：虐待と解離性障害，児童青年精神医学とその近接領域，46巻，511-516，2005。

田中究，前田宏章：虐待を受けた子どもの心理，治療，87巻，3193-3199，2005

「心のケア」に関する実態調査

(施設長様)

施設名 ()

記入者様ご氏名 () 記入者様ご職名 ()

Q1 御施設では、入所子どもに対する「心のケア」に相当する対応を実施されていますか、あるいはそのような対応をしている子どもがいますか？

注) 精神科医への相談、児童相談所通所等を含む幅広い対応を念頭にお答えください。

(はい ・ いいえ)

※「いいえ」と答えた方は Q12 までお進みください。

Q2 Q1で「はい」と答えた場合、実施されている「心のケア」を○で囲み、該当する人数をご記入ください。

※「心のケア」とは心理的あるいは心療的なケアを定期的・継続的(概ね1年以上)に行うことを指します。

1. 医療機関の利用

(小児科 名・精神科 名・心療内科 名・その他() 名)

2. 児童相談所の利用(就学前判定などすべての子どもに実施するものを除く)

(人)

3. 教育委員会関係の施設(教育研究所・教育センター等)の利用 (人)

4. スクールカウンセラーの利用 (人)

5. 適応指導教室の利用 (人)

6. 大学の心理相談室等の利用 (人)

7. 施設内心理職の利用 (人)

8. その他 () (人)

Q3 心のケアの方法は、主に誰がどのように決定されていますか？

1. 施設長の判断による。
2. ケース会議の同意による。
3. 心のケアを担当する職員（コーディネーター）の判断による。
4. 心理職の判断による。
5. その他（ ）

Q4 Q2で「医療機関の利用」を選ばれた場合、以下の質問にお答え下さい。

Q 4-1 どのような場面で医療機関と提携されていますか？

1. 日常の子どもへのサポート
2. 特に必要な子どもへの施設内での個別ケア
3. 特に必要な子どもの精神科受診
4. トラブル発生時の子どもへのサポート
5. 職員の研修
6. その他（ ）

Q 4-2 医療機関の行うどのような援助を受けていますか？

1. 助言、指導
2. 投薬
3. 心理療法
4. カウンセリング
5. その他（ ）

Q5 Q2で「児童相談所の利用」を選ばれた場合、以下の質問にお答え下さい。

Q 5-1 どのような場面で児童相談所と提携されていますか？

1. 日常の子どもへのサポート
2. 特に必要な子どもの通所相談
3. 特に必要な子どもへの対応に関する職員の相談
4. 職員の研修
5. トラブル発生時の対応に関する援助
6. トラブル発生時の子どもへのサポート
7. その他（ ）

Q 5-2 児童相談所の行うどのような援助を受けていますか？

1. 助言、指導
2. 心理療法
3. カウンセリング
4. その他（ ）

Q6 Q2で「教育委員会関係の施設の利用」を選ばれた場合、以下の質問にお答え下さい。

Q 6-1 どのような場面で、教育委員会関係の施設と提携されていますか？

1. 日常の子どもへのサポート
 2. 特に必要な子どもの通所相談
 3. 特に必要な子どもへの対応に関する職員の相談
- (次頁へ続く)

4. 職員の研修
5. トラブル発生時の対処に関する援助
6. トラブル発生時の子どもへのサポート
7. その他（ ）

Q 6-2 教育委員会関係の施設の行う、どのような援助を受けていますか？

1. 助言、指導
2. 心理療法
3. カウンセリング
4. その他（ ）

Q7 Q2で「スクールカウンセラーの利用」を選ばれた場合、以下の質問にお答え下さい。

Q 7-1 どのような場面でスクールカウンセラーと提携されていますか？

1. 日常の子どもへのサポート
2. 特に必要な子どもの通所相談
3. 特に必要な子どもへの対応に関する職員の相談
4. 職員の研修
5. トラブル発生時の対処に関する援助
6. トラブル発生時の子どもへのサポート
7. その他（ ）

Q 7-2 スクールカウンセラーの行うどのような援助を受けていますか？

1. 助言、指導
2. 心理療法
3. カウンセリング
4. その他（ ）

Q8 Q2で「適応指導教室の利用」を選ばれた場合、以下の質問にお答え下さい。

Q 8-1 どのような場面で適応指導教室と提携されていますか？

1. 日常の子どもへのサポート
2. 特に必要な子どもの通所相談
3. 特に必要な子どもへの対応に関する職員の相談
4. 職員の研修
5. トラブル発生時の対処に関する援助
6. トラブル発生時の子どもへのサポート
7. その他（ ）

Q 8-2 適応指導教室の行うどのような援助を受けていますか？

1. 助言、指導
2. 心理療法
3. カウンセリング
4. その他（ ）

Q9 Q2で「大学の心理相談室等の利用」を選ばれた場合、以下の質問にお答え下さい。

Q 9-1 どのような場面で大学の心理相談室等と提携されていますか？

1. 日常の子どもへのサポート
2. 特に必要な子どもの通所相談
3. 特に必要な子どもへの対応に関する職員の相談
4. 職員の研修
5. トラブル発生時の対応に関する援助
6. トラブル発生時の子どもへのサポート
7. その他（ ）

Q 9-2 大学の心理相談室等の行うどのような援助を受けていますか？

1. 助言、指導
2. 心理療法
3. カウンセリング
4. その他（ ）

Q10 Q2で「心理職の設置」を選ばれた場合、以下の質問にお答え下さい。

Q 10-1 どのような場面で心理職を利用されていますか？

1. 日常の子どもへのサポート
2. 特に必要な子どもへの個別サポート
3. 職員の研修
4. トラブル発生時の子どもへのサポート
5. その他（ ）

Q 10-2 心理療法のために使用される専用の設備はありますか (有 ・ 無)

※Q 10-2 で「有」と回答した場合、Q 10-3 と Q 10-4 にご回答ください。

「無」と回答した場合、Q 10-5 にお進みください。

Q 10-3 設備の詳細（広さ・設置場所）についてご記入ください。

(記入例)

プレイルーム2室 (①約17㎡・生活棟とは別棟に設置, ②約10㎡・生活棟内に設置) 面接室1室 (約10㎡・生活棟とは別棟に設置)

[]

Q 10-4 心理療法のための設備を施設に入所している子どもの心理療法以外の目的で使うことがある場合、ご記入ください。

1. 入所している子どもの親カウンセリング
2. 通所来談児のプレイセラピー
3. 通所来談者のカウンセリング
4. その他（ ）

※ Q 10-2 で「無」と回答し、かつ心理職を設置されている場合、Q 10-5～Q 10-7 にご回答ください。

Q 10-5 心理職が心のケアを実施している場所について具体的にご記入ください。

1. 休養室 2. 面会室 3. 応接室 4. その他 ()

Q 10-6 心理療法のための設備がない理由をお答えください。

1. 必要を感じない 2. 予算的に困難 3. その他 ()

Q 10-7 今後設置の予定・希望はあるか、適当なものを選択してください。

1. 予定がある 2. 予定はないが希望はある 3. 予定も希望もない

Q 11 Q3 から Q10 までに挙げた「心のケア」を受けていない子どもに対し、特別なケアを行っている場合は、具体例をご記入下さい。

()

Q 12 Q1 で「いいえ」と回答された方はお答え下さい。

Q 12-1 心のケアを行っていない理由をお答え下さい。

1. 必要を感じない 2. 予算的に困難 3. その他 ()

Q 12-2 今後「心のケア」専門のスタッフを置く予定・希望はあるか、適当なものを選択してください。

1. 予定がある 2. 予定はないが希望はある 3. 予定も希望もない

2.

Q 12-3 Q 12-2 で「予定・希望はある」と回答された方のみご記入下さい。

どのような予定・希望であるかをご記入下さい。

形態 (常勤・非常勤・ボランティア)

内容 (日常のサポート 特に必要な子どものサポート その他 ())

ご協力ありがとうございました。

「心のケア」に関する実態調査

(直接処遇職員様)

施設名 ()

性別 (男性 ・ 女性) 勤続・在籍年数 (年)

資格 (保育士・社会福祉士・教員免許・看護師・その他 ())

※お持ちの資格全てに○をつけてください。

※ 「心のケア」とは心理的あるいは心療的なケアを定期的・継続的(概ね1年以上)に行うことを指します。ケースワーカーとの連携は含みません。

Q1 現在入所している全ての児童の中で、「心のケア」として、医療機関を利用している児童はいますか。

(はい ・ いいえ) ※「いいえ」を選択された場合、Q1-9までお進みください。

Q1-1 医療機関の行う「心のケア」について、感じることを率直にご選択下さい。

効果について (1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない)

連携について (1. とれている 2. どちらでもない 3. とれていない)

Q1-2 Q1-1の理由をご記入下さい。

効果について ()

連携について ()

Q1-3 医療機関と提携して子どもを援助する上での、具体的な工夫をご記入下さい。

()

Q1-4 医療機関から提供されている情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな治療方針
2. 具体的な治療の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や症状についての説明と助言
5. 診断名
6. 薬の説明
7. その他 ()

Q1-5 医療機関から提供してほしい情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな治療方針
2. 具体的な治療の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や症状についての説明と助言
5. 診断名
6. 薬の説明
7. その他 ()

Q1-6 医療機関に提供している情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 受診理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q1-7 医療機関に提供すべきと思う情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 受診理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q1-8 互いの情報を交換する際の手段を全て選択してください。

1. 記録文書の共有
2. ケースカンファ
3. 受診時の面談
4. 受診時以外の連絡
5. その他 ()

※Q1で「いいえ」を選択された場合のみ、Q1-9～Q1-10をご回答下さい。

Q1-9 医療機関を利用していない理由をお答え下さい。

1. 必要を感じない
2. 予算的に困難
3. 時間、または職員数の都合上困難
4. 近くに利用できる医療機関がない
5. その他 ()

Q1-10 今後、医療機関を利用する希望はありますか。 (ある ・ ない)

Q2 現在入所している全ての児童の中で、「心のケア」として、児童相談所を利用している児童はいますか (就学前判定など全ての子どもに実施するものを除く)。

(はい ・ いいえ) ※「いいえ」を選択された場合、Q2-9までお進みください。

Q2-1 児童相談所で行う「心のケア」について、感じることを率直にご選択下さい。

効果について (1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない)

連携について (1. とれている 2. どちらでもない 3. とれていない)

Q2-2 Q2-1 の理由をご記入下さい。

効果について ()

連携について ()

Q2-3 児童相談所と提携して子どもを援助する上での、具体的な工夫をご記入下さい。

()

Q2-4 児童相談所から提供されている情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな援助方針
2. 具体的な援助の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や問題についての説明と助言
5. 心理検査結果
6. その他 ()

Q2-5 児童相談所から提供してほしい情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな援助方針
2. 具体的な援助の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や問題についての説明と助言
5. 心理検査結果
6. その他 ()

Q2-6 児童相談所に提供している情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 通所理由以外の問題について
2. 他児との関係
3. 職員との関係
4. 親・家族との関係
5. 学校での様子
6. その他の生活状況
7. 他機関での相談状況
8. その他 ()

Q2-7 児童相談所に提供すべきと思う情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 通所理由以外の問題について
2. 他児との関係
3. 職員との関係
4. 親・家族との関係
5. 学校での様子
6. その他の生活状況
7. 他機関での相談状況
8. その他 ()

Q2-8 互いの情報を交換する際の手段を全て選択してください。

1. 記録文書の共有
2. ケースカンファ
3. 通所時の面談
4. 通所時以外の連絡
5. その他 ()

※Q2で「いいえ」を選択された場合のみ、Q2-9～Q2-10をご回答下さい。

Q2-9 児童相談所を利用していない理由をお答え下さい。

1. 必要を感じない
2. 時間、または職員数の都合上困難
3. 近くに利用できる児童相談所がない
4. その他 ()

Q2-10 今後、児童相談所を利用する希望はありますか。 (ある ・ ない)

Q3 現在入所している全ての児童の中で、「心のケア」として、教育機関（教育研究所・教育センター等、スクールカウンセラー、適応指導教室、等）を利用している児童はいますか。

(はい ・ いいえ) ※「いいえ」を選択された場合、Q3-9までお進みください。

Q3-1 教育機関の行う「心のケア」について、感じることを率直にご選択下さい。

効果について (1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない)

連携について (1. とれている 2. どちらでもない 3. とれていない)

Q3-2 Q3-1の理由をご記入下さい。

効果について ()

連携について ()

Q3-3 教育機関と提携して子どもを援助する上での、具体的な工夫をご記入下さい。

()

Q3-4 教育機関から提供されている情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな援助方針
2. 具体的な援助の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や問題についての説明と助言
5. 検査結果
6. その他 ()

Q3-5 教育機関から提供してほしい情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな援助方針
2. 具体的な援助の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や問題についての説明と助言
5. 心理検査結果
6. その他 ()

Q3-6 教育機関に提供している情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 相談理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q3-7 教育機関に提供すべきと思う情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 相談理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q3-8 互いの情報を交換する際の手段を全て選択してください。

1. 記録文書の共有
2. ケースカンファ
3. カウンセラー等との面談
4. その他 ()

※Q3で「いいえ」を選択された場合のみ、Q3-9～Q3-10をご回答下さい。

Q3-9 教育機関を利用していない理由をお答え下さい。

1. 必要を感じない
2. 時間、または職員数の都合上困難
3. 近くに利用できる教育機関がない
4. その他 ()

Q3-10 今後、教育機関を利用する希望はありますか。 (ある ・ ない)

Q4 現在入所している全ての児童の中で、「心のケア」として、大学の心理相談室を利用している児童はいますか。

(はい ・ いいえ) ※「いいえ」を選択された場合、Q4-9までお進みください。

Q4-1 大学の心理相談室の行う「心のケア」について、感じることを率直にご選択下さい。

効果について (1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない)

連携について (1. とれている 2. どちらでもない 3. とれていない)

Q4-2 Q4-1の理由をご記入下さい。

効果について ()

連携について ()

Q4-3 大学の心理相談室と提携して子どもを援助する上での、具体的な工夫をご記入下さい。

()

Q4-4 大学の心理相談室から提供されている情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな援助方針
2. 具体的な援助の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や症状についての説明と助言
5. 心理検査結果
6. その他 ()

Q4-5 大学の心理相談室から提供してほしい情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな援助方針
2. 具体的な援助の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や症状についての説明と助言
5. 心理検査結果
6. その他 ()

Q4-6 大学の心理相談室に提供している情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 通所理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q4-7 大学の心理相談室に提供するべきと思う情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 通所理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q4-8 互いの情報を交換する際の手段を全て選択してください。

1. 記録文書の共有
2. ケースカンファ
3. 通所時の面談
4. 通所時以外の連絡
5. その他 ()

※Q4で「いいえ」を選択された場合のみ、Q4-9～Q4-10をご回答下さい。

Q4-9 大学の心理相談室を利用していない理由をお答え下さい。

1. 必要を感じない
2. 予算的に困難
3. 時間、または職員数の都合上困難
4. 近くに利用できる大学の心理相談室がない
4. その他 ()

Q4-10 今後、大学の心理相談室を利用する希望はありますか。 (ある ・ ない)

Q5 現在入所している全ての児童の中で、「心のケア」として、施設内心理職を利用している児童はいますか。

(はい ・ いいえ) ※「いいえ」を選択された場合、Q5-9 までお進みください。

Q5-1 施設内心理職の行う「心のケア」について、感じることを率直にご選択下さい。

効果について (1. ある 2. ややある 3. あまりない 4. ない)

連携について (1. とれている 2. どちらでもない 3. とれていない)

Q5-2 Q5-1 の理由をご記入下さい。

効果について ()

連携について ()

Q5-3 施設内心理職と提携して子どもを援助する上での、具体的な工夫をご記入下さい。

()

Q5-4 施設内心理職から提供されている情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな治療方針
2. 具体的な治療の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や症状についての説明と助言
5. 心理検査結果
6. その他 ()

Q5-5 施設内心理職から提供してほしい情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. おおまかな治療方針
2. 具体的な治療の内容
3. 子どもの発言
4. 子どもの行動や症状についての説明と助言
5. 心理検査結果
6. その他 ()

Q5-6 施設内心理職に提供している情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 相談理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q5-7 施設内心理職に提供するべきと思う情報はどのようなものですか、全てご選択下さい。

1. 相談理由以外の問題について
2. 生育暦
3. 入所理由
4. 他児との関係
5. 職員との関係
6. 親・家族との関係
7. 学校での様子
8. その他の生活状況
9. 他機関での相談状況
10. その他 ()

Q5-8 互いの情報を交換する際の手段を全て選択してください。

1. 記録文書の共有
2. 職員会議
3. ケースカンファ
4. 日常のやりとり
5. その他 ()

※Q5で「いいえ」を選択された場合のみ、Q5-9～Q5-11をご回答下さい。

Q5-9 施設内心理職を利用していない（配置していない）理由をお答え下さい。

1. 必要を感じない
2. 予算的に困難
3. その他 ()

Q5-10 今後、施設内心理職を利用する希望はありますか。 (ある ・ ない)

Q5-11 Q5-10で「はい」と回答された場合、どのような希望であるかをご記入下さい。

形態 (常勤・非常勤・ボランティア)

内容 (日常のサポート・特に必要な子どものサポート・その他 ())

Q6 Q1～Q5に挙げた以外で、「心のケア」を意識して行っている活動がある場合は、具体的にご記入ください。

()

Q7 親またはそれに代わる養育者への対応は、どなたが行っていますか？

1. その親の子を担当する職員
2. 家族支援専門相談員または家族調整担当の職員
3. 心理職
4. 手の空いている職員
5. 児童相談所
6. その他 ()

ご協力ありがとうございました。

「心のケア」に関する実態調査

(心理療法担当職員様)

施設名 ()

Q1 先ず、以下のフェイスシートにあなたご自身についてご記入ください。

ご氏名 ()	性別 (男・女)
年齢 (20代・30代・40代・50代・60代以上)	
勤続年数 (年) 他施設での勤務経験 (有・無) →有と答えた方 (年)	
保有する資格	臨床心理士 ・ 学校心理士 ・ 発達心理士 ・ 認定心理士 ・ 教員免許 ・ 精神保健福祉士 ・ 社会福祉士 その他 ()
勤務形態 (常勤・非常勤・その他)	常勤以外の場合・・・週 日 計 時間

Q2 業務時、あなたの主な「居場所」はどこですか？

1. 心理職専用の控え室 2. 事務所 3. その他 ()

Q3 具体的な業務内容についてご記入下さい。

1. 日常的な子どもへのケア 2. 1対1での心理療法 3. 集団療法 4. 心理検査
5. 他職員との研修・相談 6. 親との調整 7. ケースカンファへの参加
8. その他 ()

Q4 Q3「日常的な子どもへのケア」を選択した場合、ご回答ください。

Q4-1 具体的に従事してる業務についてご記入ください。

1. 日常生活全般 2. 食事補助のみ 3. その他 ()

Q4-2 「日常的な子どもへのケア」に従事することをどのように感じていますか？

利点・困難と感ずる点など自由にお書きください。

--

Q5 あなたが「心のケア」を担当されている子ども数を年代別ご記入下さい

1. 幼児 名 2. 小学校低学年 名 3. 小学校高学年 名
4. 中学生 名 5. 高校生 名

Q6 担当している子どもの主訴を、差し支えない限りで全てご記入下さい。

[]

Q7 心理療法を実施されている場合、技法をご記入下さい。(複数回答可)

1. 遊戯療法
2. 言語面接
3. 芸術療法 (スクイグル・コラージュ等)
4. 箱庭療法
5. 認知行動療法
6. 音楽療法
7. サイコドラマ
8. その他 ()

Q8 子どもを直接援助する上での、具体的な工夫をご記入下さい。

1. 褒める
2. 自主性・自律性の尊重
3. 心理療法を行う場合の動機付けの確立
4. 声をかける
5. 話を聞く
6. 伝わる言葉で話す
7. その他 ()

Q9 他の職員の方々と提携して子どもを援助する上での、具体的な工夫をご記入下さい。

1. 職員のサポート
2. コミュニケーションを取るよう心がける
3. 情報交換
4. 共通の見識を持つ
5. 声をかける
6. 話を聞く
7. 伝わる言葉で話す
8. その他 ()

Q10 Q9「情報交換」を選択した場合、ご回答下さい。

Q10-1 心理職が援助した内容について、開示しているものをご選択下さい。

1. 実施した援助の概要
2. 実際の内容や流れ
3. 子どもの発言
4. 予想される、生活場面への影響
5. 見立て
6. その他 ()

Q10-2 直接処遇職員の援助について、開示されているものをご選択下さい。

1. 主訴の現状
2. 主訴以外の問題行動
3. 他児との関係
4. 職員との関係
5. 親との関係
6. 学校での様子
7. その他 ()

Q10-3 互いの情報を交換する際の手段を選択してください。

1. 記録文書の共有
2. ケースカンファ
3. 世間話
4. その他 ()

Q11 工作上困った時、誰に相談しますか？

1. スーパーバイザー
2. 施設長
3. 施設職員
4. 心理職同士の研究会等
5. その他 ()

Q12 現在、施設以外で勤務されていますか？

1. スクールカウンセラー
2. 児童相談所
3. 医療機関
4. 大学学生相談室
5. その他民間相談機関
6. その他 ()

Q13 「児童養護施設の心理士常勤化」が検討されていますが、それについてどう思いますか？

[]

Q14 施設内心理士として、改善して欲しい点があればご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。